

市川市立福栄中学校 令和7年度 学習の指針

教科	社会科	学年	3年
----	-----	----	----

1. 学習の目標

- ・身の回りで起こっている社会事象に興味・関心を持ち、自主的に社会科の学習に取り組めるようになる。
- ・社会に関する知識を用いて、自分の思考力、判断力を磨き、それを表現できる力をつける。
- ・様々な資料を適切に活用する力を身に付ける。
- ・社会事象に関する知識、理解を深める。

2. 学習計画

	学習内容	学習のねらい
1 学期	<p>【歴史的分野】</p> <p>【第6部 近代(後半)】</p> <p>○第1章「第一次世界大戦と民族独立の動き」</p> <p>○第2章「高まるデモクラシーの意識」</p> <p>○第3章「軍国主義と日本の行方」</p> <p>○第4章「アジアと太平洋に広がる戦線」</p> <p>【公民的分野】</p> <p>【第一部 現代社会】</p> <p>【第1章 現代社会の特色】</p> <p>○1節「現代社会の特色」</p> <p>○2節「私たちの生活と文化」</p> <p>○3節「現代社会をとらえる枠組み」</p> <p>【第二部 政治】</p> <p>【第1章 日本国憲法と私たち】</p> <p>○1節「民主主義と日本国憲法」</p> <p>○2節「基本的人権の尊重」</p> <p>○3節「法の支配を支えるしくみ」</p>	<p>【歴史的分野】</p> <p>2度の世界大戦にわが国がどのような背景でどのように関わったのかや、それによって国内がどのように変化したのかを、国内外の情勢に焦点を当てて考察する。</p> <p>【公民的分野】</p> <p>現代社会の課題や持続可能な社会について考え、民主的な社会生活を営むためには、法に基づき、基本的人権を中心に人間の尊重についての考えを深める。現代社会における様々な課題の解決に向けてどのような取り組みがありどうしていくべきかなどを考える。</p>
2 学期	<p>【歴史的分野】</p> <p>【第7部 現代】</p> <p>○第1章「敗戦から立ち直る日本」</p> <p>○第2章「世界の多極化と日本の成長」</p> <p>○第3章「これからの日本と世界」</p> <p>【公民的分野】</p> <p>【第2章 政治と私たち】</p> <p>○1節「民主政治と私たち」</p> <p>○2節「国の政治の仕組み」</p> <p>○3節「地方政治と私たち」</p> <p>【第三部 経済】</p> <p>【第1章 経済活動と私たち】</p> <p>○1節「経済の仕組みと消費」</p> <p>○2節「企業と生産」</p> <p>○3節「市場経済と金融の仕組み」</p> <p>○4節「財政と私たち」</p> <p>○5節「日本経済の課題とこれから」</p>	<p>【歴史的分野】</p> <p>第二次世界大戦での敗戦をきっかけに、日本がどのような国家に変化していくのかを学習することで、これからの日本のあるべき姿について考えることができるようにする。</p> <p>【公民的分野】</p> <p>現在の日本の民主政治や経済の在り方や仕組み、問題点などを知り、国民生活の上で政治や経済の活動に主体的に関わろうとする資質を身に付ける。</p>
3 学期	<p>【公民的分野】</p> <p>【第四部 国際】</p> <p>【第1章 国際社会と私たち】</p> <p>○1節「国際社会の仕組み」</p> <p>○2節「地球的課題とその解決」</p>	<p>【公民的分野】</p> <p>国際平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点からの国家間の主権の尊重や協力が不可欠であることを学び、国際社会の中で何ができるのかを考える。</p>

3. 評価

(1) 内容および方法

	評価の内容	評価の方法
①知識・技能	歴史、公民に関する知識が身についているかや、表やグラフ、写真、地形図などからどのようなことがわかるかを的確に読み取る力。	定期試験
②思考・判断・表現	歴史、公民に関するできごとや事象がなぜ起こるのか、どのようにして起こるのかを考える力、人にわかりやすく説明する力。	定期試験 単元末評価シート ノート
③主体的に学習に取り組む態度	歴史、公民に関心を持ち、自分から積極的に学習に取り組める力。工夫して学習に取り組む力。粘り強く学習に取り組む姿勢。	提出物（ノート、ワーク） 単元末評価シート 授業内での取り組みの様子（話し合いなど）

(2) 観点と評価の関係

			評価
A	A	A	5
A	A	B	4
A	B	B	3
A	A	C	
A	B	C	
B	B	B	
B	B	C	
A	C	C	2
B	C	C	
C	C	C	1

<評価の注意事項>

各観点において
とても満足できる場合 A
満足できる場合 B
努力を要する場合 C
各観点の評価をもとに評定を決定します。
定期試験で満点を取り「知識・技能」・「思考・判断・表現」がともにA評価であっても、章末評価シートやノート、ワークなど「主体的に学習に取り組む態度」がBまたはCの場合、評定が「5」にはならないということです。定期試験以外の評価が重要であるという認識をしっかりと持って日頃から学習に打ち込んでほしいと思います。

4. 教科に関するアドバイス

歴史的分野では、近現代史に入ります。日本が近代国家の仲間入りを果たし、欧米諸国との複雑な国際関係にどのように関わっていくのか着目しながら授業を進めていきます。また、第一次世界大戦や第二次世界大戦の戦後処理などを学習し、どのように平和を実現しようとしたのか歴史に学ぶ姿勢を身に着けましょう。公民的分野では現代社会の基本的なシステムや最新の国際社会の変化などを学びます。歴史的分野の学習内容を踏まえながら、卒業したら社会を構成する一員となる自覚をもち、学習に臨むと知識が入りやすいでしょう。今年度は高校受験を迎える年ですが、受験勉強にとらわれず、自分が興味をもった学習内容や現代社会で起こるニュースなど、積極的に知識を取り入れていきましょう。思わぬところで自分が学習した内容とつながってくるかも知れません。